

3/23,24 地元NGOに聞く！ ボルネオ島の森林再生と火災のリアル現場話

-FNPF(Friends of the National Parks Foundation) ジュルンブン管理者・イサムさん講演-

【違法伐採は森も、希望も壊した！ 今、挫けないで広大な再植林を仲間と作業する！】

【仕事は違法伐採から植林へ】

こんにちは。初めての海外で最初の報告です。私は、中カリマンタンのタンジュン・ハラパン村に生まれ、生まれた頃は村では自給自足で米も植えていました。小学校も1つあり、中学校へ行く予定が、父の手伝いで農業をしました。

1997年に大きな洪水があり、コメが全滅しました。ちょうど違法伐採の話もあり、私の家でもその仕事をする事になりました。村の大半がその仕事。

タンジュン・プティン国立公園に入って、多くの伐採作業をして、90万ルピア(約1万円)になりました。私にとって60万ルピアと言えば高額であり、違法伐採でそんなにお金が得られるのに驚きました。

この違法伐採の仕事を2000年までしていました。2001年から取締りも始まり、次第にきつくなり、次は金の採掘をしたのです。6ヶ月ですが、キツイ仕事で借金だけが残るものでした。そして石炭開発の仕事もしました。見渡せば、環境が変わっていました。オランウータン・ファンデーションでマネージャーをしたのですが、自由な仕事を求め、2004年からFriends of the National Parks Foundation(FNPFと略)で安い賃金の仕事。

カリマンタンの森は、生まれた1985年に73.7%でした。それが2000年に57.5%、2005年に50.4%、2010年に44.4%に激変しました。カリマンタン全土で1997-2000年に違法伐採が進んだのです。川の周りに森があっても、中に入ると森がない。そして、2000年からアブラヤシ農園が来しました。

【アブラヤシ農園と火災の拡大】

農園の企業は、水路を掘り、アブラヤシを乾燥地に植える。整地する時に、火を使う人がいるため、火災もあちこちで引き起こることになりました。元の泥炭湿地なら水が蓄えられるのですが・・・

2006年は乾季が長く、タンジュン・プティン公

園でも大きな火災がありました。村でみんなが消火したと思われたグルルでは、火災が消えず植林がいっぱい燃えました。水がないから、防火帯を作るために7-8mの間隔の森を切り、拡がるのをとめました。小型消火器ジェットシューターは限界があり、泥炭地の下で火災が蓄えられ、あちこちに火災が拡がる。消すことは困難です。

2006年は21日間、野営で森に寝ました。水を探す。しかし小川が枯れている。井戸も水がない。寝ていたらカラカラという音がして、また地面から火災。鋤、鋤も使い火を消す作業をする。200haの植林地は45分で燃えてしまった・・・。鎮火と思い、皆が村に戻り、4人しか残っていなかった。

タンジュン・プティン国立公園は約36万haですが、2015年にはこの公園の1/4が燃えました。村人、公園事務所職員、FNPFスタッフ、ボランティアも鎮火の努力をしたのですが、あちこちで燃えているから鎮火まで8月から11月初めまでかかりました。タンジュン・プティン国立公園だけでなくカリマンタンの広域、スマトラ、パプアでも燃えてCO2の排出量は、日本の排出量を遥かに上回るものでした。煙害もひどく、飛行機のフライトもない。煙を多く吸い50万人が病院に運ばれました。観光客が夏以降全く来れなくなり、6千万円の損失だそうです。

【挫けない！再植林を広げている！挑戦です】

私たちFNPFが植えた約200haの約9割がこの火災で燃えた。大きく育ちだした二次林までも。植林の努力が水泡に消える。だけど再度植林しようと思えば皆FNPFメンバーは思い、もっと広大に植える取組みを始めています。

植林の今後の課題は、アクセスの悪い所では燃えただけで苗木が手に入らない。近くからなかなか種が飛んでこないことです。だから外部から苗木を多く運んでいます。もう1つは、大きな木が立枯れしてそのままの有様です。いつ倒れてくる

かみしれず、植林作業が上手く進まないことです。このように再植林を続けます。私たちは挫けない。

今年2018年のFNPFの再植林計画です。私たちは約200万本植える予定です。場所は、スンガイ・ベサ 15万本、アルト・バル 2千本、Natai Kapuk 等 15万5千本、ジュルンブン 3万3千本、パサラ 2万本、などです。

こんな大規模な再植林計画は初めてですが、挑戦します。多くの人々の力を借りての計画です。

1年たった苗ポットに入れた苗木を植えるようにしています。劣化した土地や火災地に植えていくのです。野営地で何日も住み込んで作業をしています。

私の過去の違法伐採の経験は誤りだったと思います。違法伐採は森も壊し、希望も壊します。その罪を補うために森の再生をし続けます。もとの森に復元し、子孫を含む多くの人たちが希望を持てるようにしたい。FNPFに関わり、素晴らしい経験をしています。ありがとうございました。

【イサムさんへの質疑】

Q:なぜ有機農業もされているのですか？

A: 現在試行中です。ハラパン村でしてはなく、野菜を買っている((笑)。農業は本当、誰にでもできる作業です。ハラパン村でアブラヤシに関わる人々が増えていますが、地域社会で昔のように土地を有効活用して、自給自足を広げたい。農薬を使えばそれだけ費用がかかるし、体に良くないからです。

Q:鎮火活動は身の危険がないですか？

A:仲間も私も絶対火を消したい。再生の森がある。植林はハードな仕事で、続けてきた。火災で1瞬になくなる。だから何としても鎮火させる。

Q:植林へのモチベーションは？

A:何度も植林地が火災にあいました。絶望していません。8ヶ月も給料がなかった時もありました。再植林させるという気持ちが強いからでしょう。

Q:FNPFの資金は？

A: 詳しく知りませんが((笑)、今はドネーション。アメリカのボーイング社、One Tree、ウータン やボランティアのファンド等です。ボランティア受入れを外国人中心でして、資金調達にもなっ

ています。

Q:火災は予防が大事と思うが、課題は？

A:以前は防火帯を作るが1つの主たる行動でしたが、今は火災情報を察知して、初期火災鎮火がメイン。課題はアクセス。再植林する所に小道を作る。壊れたドローン修理して情報確認。

インドネシア政府は、2015年の大火災以降消防車を早期出動させるという変化が起きました。(※Tempo マガジンでFNPFカリマンタン管理者のバスキ氏が【火災の中の英雄】に選出!)

Q:イサムさんはお子さんがいるようですが、環境教育はありますか？

A:小学校での環境教育は独立したものはありません。現場の実体験は屋外にいっぱいあります。FNPFは今、協力する地元の各学校を始め常に連携しており、大学生が環境教育するプログラムを共同で考え、実践しています。